

聴き方スキルトレーニング活動案（略案）

平成 14 年 9 月 17 日（火） 3 校時
 指導者 茂木 裕代 豊岡 茂子
 4 年 2 組（35 名） 場所 教室

ねらい

- ・ スキルトレーニングをとおしてよい聴き方で聴いてもらったときの心地よさを感じ、よい聴き方で聴こうとする態度を育てる。
- ・ インストラクション、モデリングをとおしてどういう聴き方がよい聴き方なのか知る。
- ・ よい聴き方を練習することができる。

獲得するスキル

非言語的側面

- 今やっていることをやめて、相手の方を向く。
- 話している人の顔を見る。
- うなずく。

言語的側面

- 相手が話し終えるまで聴く。
- あいづち（うん、ああ、そうそう、すごいね）を打つ。

準備 ふりかえりカード（個人カード 1）、名人カード（個人カード 2）、スキルカード、さいころトークカード、さいころ 18 個
 名札（よくきける子、よくきけない子）模造紙

展開

	内容・活動	時間	教師の支援・援助・留意点
シ ョ ン ス ト ラ ク	・ 本時のめあてを知る・ 聴き方名人になろう		
	・ 名人になるコツを見つける。	5	
モ デ リ ン グ	・ 担任と TT で演じるのを見て名人になるコツを見つける。 今やっていることをやめて、相手の方を向く。 話している人を見る。 うなずく 相手が話し終えるまで聴く。 あいづち うん、ああ、そうそう、すごいね	15	・ TT でロールプレイすることとおしてスキルを見つけられるようにする。 ・ よくない例を演じることにより、よい聴き方のスキルを見つけられるようにする。 ・ よい聴き方はよくない例をもとに出せるようにする。 ・ よい聴き方のポイントをカードにまとめながら黒板に貼っていく。
	・ 二人組になって「運動会の練習」「運動会」の話をする。	5	・ よくない聴き方、よい聴き方の両方で聴く。よくない聴き方は「下を向いて手遊びをする」「うなずかない」聴き方とする。

フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> よい聞き方、よくない聞き方の違いを振り返る。 	5	<ul style="list-style-type: none"> よくない聞き方のとき、よい聞き方のときの違いを友達の発表を聞きながら確認するようにする。 よい聞き方が話しやすい。
リハサル	<ul style="list-style-type: none"> 二人組でよい聞き方で話をする。 <p>サイコロトーク</p> <ol style="list-style-type: none"> きのうのこと 朝起きてから学校に来るまでのこと 夏休みのこと 好きなテレビ番組と好きなタレント 好きな遊び、好きなゲーム 好きな食べ物、好きな料理 	10	<ul style="list-style-type: none"> 聞き方のよいところを見つけて、ほめる。 あいづちを入れているところなど聞き方のよいところを見つけてほめる。
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりカード（個人カード1）に記入する。 やってみた感想を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>よく聴いてもらおうと話しやすい。 これからちゃんと話が聞けるよう したい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 名人カード（個人カード2）にこれから、1週間のめあてを書く。 	20	<ul style="list-style-type: none"> 聞き方の評価は話した相手に点をつけてもらう。 相手を客観的にみることが難しい児童について、個別にかかわっていく。 話を聴いてもらおうよさについてふれたものを広げていく。 友だち同士でなく、日直の話を聴く、先生の話も聴くということも入れてよいことを知らせる。 カードに書いたスキルを参考にして書くようにする。

評価

- よい聞き方について理解することができたか。（振り返りカード）
- 自分なりのめあてを持ち、聞き方に気をつけようとしているか。（名人カード）
- よい聞き方のよさを感じることができたか。（観察、発表）

事後の活動

- スキルを書いたカードは模造紙に貼って教室に掲示しておく。
- 聞き方を発揮できそうな場面を朝の会のときに担任から話してもらう。
- 名人カードへの記入と反省
帰りの会のときに名人カードにその日の自分の聞き方をふりかえって記入し、担任に提出する。
担任からの簡単なはげましの言葉を入れる。
めあては途中で付け加えたり、変更してもよい。
- カード終了後「聞き方名人賞」「聞き方がんばり賞」を渡す

ふりかえりカード

名前()

今日の練習をふりかえてみよう。
よくできたら、もう少しのところは を話した相手の人に書いてもらおう。

き き 方	さいてん(か)
話している人のほうに体をむける。	
話している人の顔を見る。	
てわるさをしない。	
うなずいたり、あいづち(うん、ああ、そうそう、すごいね)をうったりしながらきく。	
話を最後まできく。	

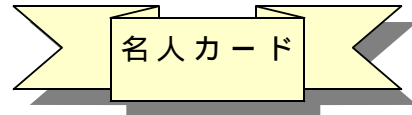
「ききかた名人」になるには どうしたらいいか分かりましたか。

とてもよく分かった よく分かった どちらでもない あまりよく分らなかった 分らなかった

一言感想(話をきいてもらってどうでしたか、これからどうしたいですか)

<hr/> <hr/> <hr/>

まき方名人をめざそう



名前()

「こんなとき きをつけてきくよ。こんなことに きをつけてきくよ。」
ということを書いてみよう。

日にち	さいてん	こんなところをがんばったよ やってみたよなど、ちょっと一言	先生から
9 / 18 (水)			
9 / 19 (木)			
9 / 20 (金)			
9 / 24 (火)			
9 / 25 (水)			
9 / 26 (木)			

さいてんは自分で 「よくできた」、「できた」、「もう少し」でつけてみよう。

最後に今までやってみて感じたことを書いてみよう。

感想

先生から

かかわりの言葉スキルトレーニング活動案(略案)

平成 14 年 10 月 3 日(木) 2 校時
 指導者 茂木 裕代 豊岡 茂子
 4 年 2 組 (35 名) 場所 教室

ねらい

- ・ スキルトレーニングをとおして「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉を遣おうとする態度を育てる。
- ・ スキルトレーニングをとおして「ありがとう」の言葉のよさに気づくことができる。
- ・ スキルトレーニングをとおして「ごめんなさい」の言葉の必要性に気づくことができる。
- ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」の言い方を知る。

獲得するスキル

非言語的側面

相手の方をみて言う。

気持ちをこめていう。(ありがとうは感謝の気持ち、ごめんなさいは申し訳ないという気持ち)

言語的側面

聞こえる声で

準備

教師 スキルカード、ロールプレイ原稿

児童 「ありがとう」カードを書いて用意しておく
 振り返りカード、名人カード、名前を書く紙

展開

	内容・活動	時間	教師の支援・援助・留意点
ライシヨント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを知る。 ・ かかわり名人になろう 		
モデリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ごめんなさい」の必要性に気付く。 ・ 「ごめんなさい」の言い方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 相手の方を向く。 相手に聞こえる声で言う。 悪かったという気持ちの伝わる言い方をする。(威張っていったり、強く言ったり、嫌々言ったりしない) </div>	5 15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任とのロールプレイで「ごめんなさい」と言わなかったことが原因でけんかになった例をだし、「ごめんなさい」と言えばよかったことに気付くようにする。 ・ わざとやったのでなくても、相手に対して悪いことをしたときは謝ることに気付くようにする。 ・ 言い方は教師の演技をもとにしながらまとめていくようにする。
リハ―サル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人組で謝り方のロールプレーをする。 ・ 机にぶつかって、字が乱れた例(一方が悪いことが分かっている例) 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机に友だちがぶつかったことで、書いていた自分の名前が曲がってしまった例で行う。 ・ 謝ったときと謝らないときの両方やってみることににより、謝ることの大事さに気付くようにする。 ・ ぶつけられた方もぶつかったことを感情的に相手に伝えると謝りにくいことに気付くようにする。
モ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」のよさに気付く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」と言ったときと、言

デ リ ン グ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうと言われたときと言われなかったときを比べる。 ・ 「ありがとう」の言いかたを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相手の方を向く。 相手に聞こえる声で言う。 感謝の気持ちの伝わる言い方をする。 (威張っていったり、強く言ったり、嫌々言ったりしない)</p> </div>	<p>わなかったときをロールプレイで演じて比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」と言われた人もうれしいし、雰囲気は温かくなることに気付く。 ・ 「ありがとう」の言い方についてもロールプレイを通してとらえられるようにする。
リ ハ ー サ ル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人組でお礼の言い方のロールプレイをする。 ・ 「ありがとう」カードを渡し合う。 	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣の席の人に消しゴムを貸してもらったという設定でお礼を言う。 ・ 前もって、書いておいたありがとうカードに書いたことを読みながらお互いに渡す。もらった人は「ありがとう」を言う。 ・ カードはグループの中でお互いに書いておくようにする。グループ以外の友だちにも書いてよいことにする。 ・ もらったありがとうカードの内容を読むことによって、ありがとうと言ってもらえることをしていくことも大事であることに気付くようにする。
フ イ ー ド バ ッ ク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカード(個人カード1)に記入する。 ・ やってみた感想を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ありがとうと言われてうれしかった。 ありがとうカードをもらってうれしかった。 ありがとうと言うようにしたい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名人カード(個人カード2)にこれから、1週間の目当てを書く。 	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」と言われたときのうれしい気持ち、「ごめんなさい」の大事さに気付いたものを取り上げて広げていくようにする。 ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」が言えるとかかわり名人になれることを確認する。 ・ 「ごめんなさい」と「ありがとう」の両方でなく「ありがとう」だけでもいいことをにする。

評価

- ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」の大切さを理解することができたか。
(振り返りカード、観察、発表)
- ・ 自分なりの目当てを持ち、行動しようとしているか。(名人カード)

事前

- ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」をどのくらい言っているのか観察する。
「ありがとうカード」を書いておく。

事後の活動

- ・ 授業後にありがとうカードを各自で画用紙に貼る。
- ・ スキルを書いたカードは模造紙に貼って掲示しておく。
- ・ 名人カードへの記入と反省
帰りの会のときに名人カードに自分の行動や感想を記入する。
担任からの簡単な励ましの一言を入れる。目当ては途中で変更してもよい。

ふりかえりカード

名前()

「ごめんなさい」の大切さがわかりましたか

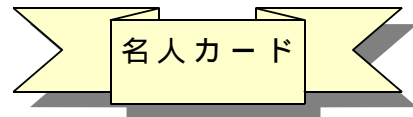
とてもよく分かった	よく分かった	どちらでもない	あまりよく分らなかった	分らなかった
-----------	--------	---------	-------------	--------

一言感想

「ありがとう」と言われたり、ありがとうカードをもらったりしてどうでしたか。
「ごめんなさい」と言われたときどうでしたか。これからどうしたいですか。

<hr/> <hr/> <hr/>

かかわり名人をめざそう



名前()

自分のめあてを書こう

「ありがとう」は自分で言ったのでも、人から言われたのでも書いてください。
 「ごめんなさい」は自分で言ったのだけ書きましょう。

日にち	さいてん	こんなことができたよ、こんなことが言えたよなど、ちょっと一言	先生から
10 / 3 (木)			
10 / 4 (金)			
10 / 7 (月)			
10 / 8 (火)			
10 / 9 (水)			
10 / 10 (木)			
10 / 11 (金)			

さいてんは自分で 「よくできた」 「できた」 「もう少し」 でつけてみよう。
 最後に今までやってみて感じたことを書いてみよう。

感想

先生から

あたたかい言葉スキルトレーニング活動案

平成 14 年 10 月 17 日（木）2 校時

指導者 茂木 裕代

4 年 2 組（35 名） 場所 教室

ねらい

- ・ スキルトレーニングをとおして温かい言葉のよさに気づき温かい言葉を遣おうとする態度を育てる。
- ・ 温かい言葉はどんな言葉か知る。
- ・ いやな言葉はどんな言葉か知る。
- ・ どんなことをされるといやか知る。

獲得するスキル

非言語的側面

温かい言葉を遣おうとする。

いやな言葉は遣わないようにする。

されるといやなことを知る。

言語的側面

温かい言葉を気持ちを込めて言う。

準備 ふりかえりカード、言葉記入カード（2種類）

袋（ビニルふくろ）、袋を閉じる紐

展開

	内容・活動	時間	教師の支援・援助・留意点
イ ン ス ト ラ ク シ ョ ン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを知る ・ やさしさ名人になるう パート 1 ・ やさしさ名人になるには、言葉に気をつけることが大事であることを伝える。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」がうまく言えるようになっていることを認める。 ・ クラスのアンケートから、クラスの友だちがもっと仲良くなる方法にいやなことを言わない、いやなことをしないということが多かったことを伝える。
モ デ リ ン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任と児童の ロールプレイをみる。よそ見をしながら帰って、給食台にぶつかった例（バカみたいと言ったとき）（だいじょうぶといったとき） ・ 言われていやな言葉、されるといやなこと、言われてうれしい言葉を個々にカードに書いて黒板につける。 ・ されるといやなことを確認する。（たたく、ぶつ、ける、物をかしてくれない 仲間はずれにする、かげでひ 	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じことをしたとき、いやな言葉を言われたときと温かい言葉を言われたときで受ける感じの違うことから言葉の大切さに気付くことができるようにする。 ・ どうしても書けない児童は、言われていやな言葉、されるといやなこと、言われてうれしい言葉の中の一つでもいいことにする。

グ	<p>そひそ話すなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言われるといやな言葉を確認する。 (ばか、ぶた、のろま、きたない、死んじゃえ、へたくそなど) ・ 言われるとうれしい言葉を確認する。 (よくできたね、すごいね、上手だね、がんばったね、大丈夫、ありがとうなど) 		
リ ハ サ ル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言われていやな言葉を二人組になってかけ合う。 ・ 言われてうれしい言葉を二人組になってかけ合う。 ・ 役割を交代する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ されるといやなことは黒板で確認していっただけにする。 ・ 黒板につけたカードを見ながら声をかけるようにする。いやな気持ちになるのでけんかにならないように配慮する。 ・ いやな言葉を言うことに抵抗のある児童もいると考えられるが、劇のように演技であることを伝える。 ・ うれしい言葉をかける時間の方を長くする。 ・ 簡単に感じたことを言わせるようにする。
フ イ ド バ ツ ク	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえりカードに 記入して、発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いやな言葉を言われると、いやだ。 いやな気持ちになる。 いやな言葉は言いたくない。 頭にくる。 うれしい言葉をかけられると いい気持ちになる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優しさ名人になるためにはどうしたらいいか確認する。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ いやな言葉をかけられたときはいやな気分になる、うれしい言葉をかけられたときはいい気分になるという、自分の気持ちの違いをとらえられるようにする。 ・ 同じような意見でも多くの子の考えを聴くようにする。 ・ されるといやなこと、言われるといやな言葉を袋の中に入れて、このクラスの中で出さないようにする。 ・ 言われてうれしい言葉を増やしていくことを確認する ・ やさしさ名人カードは、うれしい言葉を詳しくやってから、配ることを伝える。

評価

- ・ 温かい言葉、嫌な言葉の違いを理解することができたか。

(振り返りカード、観察、発表)

事後の活動

- ・ 気持ちを分かって働きかけるスキルトレーニングにつなげる
- ・ 言われてうれしい言葉は教室に掲示する。

ふりかえりカード

名前()

言われるといやな言葉、されるといやなこと、言われてうれしい言葉がわかりましたか

とてもよく分かった	よく分かった	どちらでもない	あまりよく分らなかった	分らなかった
-----------	--------	---------	-------------	--------

今日の授業はどうでしたか。いやな言葉を言われたときはどんなきもちでしたか。うれしい言葉を言われたときはどんな気持ちでしたか。これからどうしたいですか。

一言感想

相手の気持ちを考えた言葉スキルトレーニング活動案(略案)

平成 14 年 10 月 18 日(金) 2 校時

指導者 茂木 裕代

4 年 2 組(35 名) 場所 教室

ねらい

- ・ スキルトレーニングをとおして思いやりのある言葉をかけてもらったときのよさに気づき自分も思いやりのある言葉をかけようとする態度を育てる。
- ・ 状況や表情から相手がどんな気持ちなのか知ることができる。
- ・ 相手の状況にどんな言葉をかけるとよいか知ることができる。

獲得するスキル

非言語的側面

相手の表情、状況から気持ちを知る。

どういう状況、気持ちのときにどんな言葉をかけるとよいか知る。

言語的側面

相手に気持ちが伝わるように気持ちを込めて温かい言葉をかける。

相手を見る。

準備

振り返りカード、名人カード、スキルカード、ワークシート、感情カード

探検バッグ(児童)

展開

	内容・活動	時間	教師の支援・援助・留意点
インストラクション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを知る・ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">やさしさ名人になろう。パート 2</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の様子を見て、気持ちを分かって言葉をかけていくことを知る。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ いやな言葉について知って、昨日から今日まで気をつけたかどうか確認する。 ・ やさしさ名人は、いやな言葉を言わないだけでなく、相手の気持ちになって言葉をかけていくことが大事であることを伝える。
モ デ リ ン グ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表情から気持ちをあてるゲームをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おこる、喜ぶ、悲しむ、困る 気持ちを考える。</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの場面を例に挙げ、ワークシートにどんな言葉をかけたらよいか考えて書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">かける言葉を考える</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーが見つからない例でロールプレイを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">言葉をかける 気持ちを込める 相手の方を向いて言う</div>	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの状態(気持ち)をカードに書いて、黒板につけ、その中から選んで隣同士で当てる。 ・ 言葉がなかなか書き始められない児童には、自分がそうなったときどんなきもちか、どんなことを言ってもらおうとうれしいか考えられるようにする。 ・ 友だちの言葉を参考にして考えられるようにする。 ・ 一つの班を前に出してやり方を説明するようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人～5人組になってワークシート 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人組になって、ワークシート中から

リ ハ サ ル	<p>をもとにロールプレイをする。 ワークシートの内容</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほめる、一緒に喜ぶ 跳び箱がうまく跳べた。 リコーダーが上手にふけるようになった。 ・ 励ます、なぐさめる ころんで足をすりむいた。 模造紙を破ってしまった。 ・ 助ける リコーダーが見つからない。 </div> <p>追加できそうな内容例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習字が上手に書けた。 ・ ハンドベースボールで三振してしまう。 ・ ハムスターがいなくなってしまった。 ・ 鉛筆を忘れて困っている。 ・ 野球の球が見つからなくなった。 </div>	15 <p>自分の役を選び、声をかけてもらうようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間内に終わったら、他の役をやったり、自分たちがその場で考えた役を演じてよいことを伝える。 ・ ロールプレイの時間を十分に取ることによって、気持ちを分かってかける言葉のよさを体験できるようにする。
フ イ ド バ ツ ク	15 <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカードを書く。 ・ 振り返りカードに書いた感想を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>一緒に喜んでもらってうれしい。 ほめてもらうとうれしい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名人カードに目当てを書く。 	15 <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉をかけてもらった気持ちが書けるようにする。 ・ いやなことを言わない、温かい言葉をかけるなどの前日の内容をめあてにしたものも認める。 ・ 友だちからやさしくされたことに気付くことも大事であることを伝える。 ・ 相手の表情をみて、相手の気持ちを考えて言葉をかけられることがやさしさ名人であることを知らせる。

評価

- ・ 思いやりのある言葉をかけてもらったときのよさに気付いているか。
(振り返りカード、観察、発表)
- ・ 自分なりの目当てを持ち、行動しようとしているか。(名人カード)

事前の活動 実際にロールプレーで取り上げられそうな場面を観察して探しておく。

事後の活動

- ・ 名人カードへの記入と反省
帰りの会のときに名人カードに気持ちを分かって言葉をかけたか、温かい言葉をかけたか
いやなことを言わなかったか、いやなことをしなかったかを記入する。
担任からの簡単な励ましの一言を入れる。(最後に賞状を渡す)
めあては途中で変更、追加してもよい。

ふりかえりカード

名前()

今日の練習をふりかえってみよう。

よくできたら もう少しのところは を書いてみよう。

言葉のかけかた	さいてん(か)
相手の様子から、気持ちを考える	
相手の様子に合わせてかける言葉を考える	
ことばをかける	

「やさしさ名人」になるには どうしたらいいか分かりましたか。

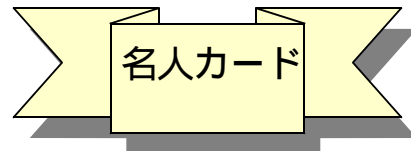
とてもよく分かった よく分かった どちらでもない あまりよく分らなかった 分らなかった

--	--	--	--	--

一言感想 (おともだちにやさしい言葉をかけてもらったり、かけたりしてどうでしたか。これからどうしていきたいですか。)

<p>-----</p> <p>-----</p>

やさしさ名人をめざそう



名前()

「自分では、こんなふうにしていきたい」ということを書いてみよう。

友だちにやさしい言葉をかけた、やさしくできた、友だちにやさしくされたということを書いてみよう。やさしくされたことに、気づくことも名人への大事な道です。

日にち	さいてん	こんなことができたよ、こんなことを言ってもらったよなどちょっと一言	先生から
10 / 18 (金)			
10 / 21 (月)			
10 / 22 (火)			
10 / 23 (水)			
10 / 24 (木)			

さいてんは自分で 「よくできたよ」、「できたよ」、「もう少し」でつけてみよう。

最後に今までやってみて感じたことを書いてみよう。

感想

先生から

お子さんの話を聴いていますか？

今日は子どもたちと、話をよく聴こうという勉強をしました。

話をよく聴くためには気をつけることとして

- ・ 今やっていることをやめる。
- ・ 話している相手の顔を見る。
- ・ うなずきながら聴く。
- ・ あいづち(うん、ええ、そうそうなど)をうちながら聴く

こんなことを、確認した後で、聴き方の練習をしました。

お家の人へのお願い

聞くとは・・・音声が耳に入ること、自然に聞こえてくること

聴くとは・・・自分の方から念を入れて聴くこと

忙しいとなかなかじっくり聴いてやることもできないと思いますが、時間の長さでなく、親子のかかわりは質が大事です。子どもが聴いてほしいと思っているときには、じっくり聴いてあげてください。

聴き方のコツ

気持ちをわかってやる

すぐに「それはおまえがわるいんだよ」「それは　さんが悪いよ」と決めつけたように言う前に気持ちを分かってあげてください。

「そのとき悲しかったんだ」

「さびしい思いをしちゃったんだ」

ほめる

ほめてもらいたくて話しているときは、十分ほめてあげてください。

「漢字テスト100点だったよ」

「よかったね。がんばったね。昨日練習していたからね」

家でこんな風にしてみました。または、お子さんが人の話を聴く様子が少し変わりました。聴き方が少しよくなりました。などということがあったら教えて下さい。

「ありがとう」「ごめんなさい」の言える子に・・・

今日は「ありがとう」「ごめんなさい」を言えるようにしようという勉強をしました。

こんな話があります。

浩宮さまの子育てでは、高いところのおもちゃを取ってもらったときには必ず「ありがとう」と、投げたボールが人に当たれば「ごめんなさい」と言えるまで何度も教えられたということです。

このように人とかかわっていくには「ありがとう」「ごめんなさい」が大事です。

今日の授業では、「ありがとう」と言ってもらったときの気持ちを体験したり、「ごめんなさい」の大事さに気付くための勉強をしました。「ごめんなさい」の一言でけんかにならずにすむこともあります。

また、「ありがとう」は家庭の中でもぜひ、意識してつかってください。ちょっとしたお手伝いをしてくれたとき「ありがとう、助かったよ、ちゃん～を取ってと頼んで取ってくれたら、一言「ありがとう」と言う。家庭の中で「ありがとう」と言ってもらっていると、周りの人や友だちに「ありがとう」が言えます。

「1ねん1くみせんせいあのね」の中から、詩を紹介します。

「びょうき」

おかあさんがかぜをひきました
ぼくはよるこんでもらおうとおもって
ふとんをしきました
おかあさんはありがとうといってねました
おとうさんがかえってきて
だいじょうぶかといって
おかあさんのからだをもんであげました
おかあさんはいいきもちそうでした
びょうきをしたらみんなやさしくなります

「ありがとう」から思いやりのある子を育てていくことができるのではないかと思います。

今日から、「かわり名人カード」を始めます。「ありがとう」と言ってもらったり、言ったりしたときや「ごめんなさい」が言えたときに記入します。「ありがとう」と言ってもらったときも書きますので、お家でもぜひ「ありがとう」をつかってみてください。
もし、お子さんのことで、何かよい面が見られたら、連絡をお願いします。

思いやりのある子に……………

昨日と今日の二日間で、どんなことを言われるといやか、どんなことを言われるとうれしいか、友だちにどんな声をかけていったらよいかなど、思いやりの勉強をしました。思いやりはこうしたことをやってすぐ身につくものではありません。この授業をきっかけに意識して行ってほしいと思います。

思いやりのステップとは……………

- 1 自分の身を振り返って「こんなとき、自分はどうか」と考え、相手の思いを想像してみる。
- 2 人によってとらえ方は少し違いますが……………
- 3 自分の思いが相手に伝わる
こんなステップですが……………

日常自然に思いやりのある行動が出ています

- ・ 母親が机の角に指をぶつける
子どもが「おかあさん、痛かった?」と声をかける
母親はその言葉に心が和み「大丈夫よ」と返す

思いやりを育てるには…

しかりかたを変える

誘導的しつけ

子どもが思いやりに欠ける行動をとった場合、ただ「やめなさい」と叱るのでなく「Mちゃんが泣いているね。Mちゃんの頭をたたいたからだよ。Mちゃんは、今、どんな気持ちだろうね。考えてごらん。……………あやまるうね」のように

自分の行為の結果生じた迷惑や損害に注意を向けさせ
相手の立場になって気持ちを考えさせ、
あやまれるようにしていく。

ということが大事です。

叱るときに、感情的に叱るばかりでなく、しっかりと理由を教えることが大事です。

ほめるところに目を向ける

一つのことが目に付くと、それをきっかけに「またこんなことをしてとあれもこれも言いたくなって、小言ばかり言うてしまうことがあります。子どもを叱ってばかりいると、いつの間にかほめるところが見付けにくくなってしまいます。

子どもの欠点ばかりに目が向いているような気がしたら、毎日の暮らしの中で「よくがんばったね」「ありがとう」「よかったね」などが言えるような子どもの行動をさがしてください。子どものほめるべきところに目を向けてください。

自尊心を傷つけない働きかけ

子どもの心の中に恐怖や怒りだけを抱かせるようなしつけでは一時的に行動が変わっても心から納得することはできません。そして、子どもの自尊心（自分のよさがわかったり、自分に自信を持ったりすること）を傷つけると劣等感の強い子になってしまいます。

周りの人から認められ、ほめられるべきところをほめていくことが大事です。

子どもの自尊心を傷つける言葉、言われるといやな言葉（小学生のアンケートより）

- ・ ばか、あほ、ちび、ぶた、かす、のろま、ちえっ（舌打ち）しね、
- ・ そんな子どもに育てた覚えはない、役に立たないな、
- ・ （家から）出ていけ、黙れうるさい、
- ・ 生意気、なにしてんの、もっと頭よくなれ、進歩ないな
- ・ （兄弟けんかの後に）あんたが悪い（弟が手を出しても）おまえはがまんするんだ、
- ・ 早くしなさい、なにもたもたしてんの、ちゃんと勉強しろ、もっとがんばれ、
- ・ もう、何度も言っているでしょ、 ちゃんができるんだから、あんたもやりなさい、

ののしる言葉、存在そのものを否定するような言葉、どう喝、馬鹿にする言葉、比較した言葉、言い分を無視した言葉などを子どもたちは言われるといやな言葉としてあげています。

ゆとりを持つ

人は健康で心が安定してしているとき思いやりを示すことができます。自分の心にゆとりがあれば、人を思いやることができますが、ゆとりがなくなり人を思いやることができなくなります。

いつもいつもというわけにはいかないかと思いますが、自分にゆとりを持ち、お子さんに接するようにしてください。

今日から、「やさしさ名人カード」を始めます。やさしいことばをかけた時、かけられたときに記入します。

もし、お子さんのことで、何かよい面が見られたら、連絡をお願いします。

また、家でこんなふうにしてみた、こんなふうをしているということがあったら教えてください。